

令和5年度 全国学力・学習状況調査

調査結果概要と改善の取組

4月に実施した6年生対象の全国学力・学習状況調査の調査結果概要及び今後の改善の取組について御報告します。

正答率概要

	国語	算数
本校	60.0%	60.0%
東京都平均	69.0% (-9.0)	67.0% (-7.0)
全国平均	67.2% (-7.2)	62.5% (-2.5)

※ () の数値は本校と東京都平均及び全国平均の差を表しています。

正答数四分位概要

四分位	国語 (全 14 問)			算数 (全 16 問)		
	本校	東京都平均	全国平均	本校	東京都平均	全国平均
第3四分位	11.0 問	12.0 問	12.0 問	13.0 問	14.0 問	13.0 問
第2四分位	9.0 問	10.0 問	10.0 問	10.0 問	11.0 問	11.0 問
第1四分位	6.0 問	8.0 問	8.0 問	6.0 問	8.0 問	7.0 問

※「四分位数 (しぶんいすう)」とはデータを小さい順に並び替えたときに、データの数で4等分した時の区切り値のことです。4等分すると3つの区切りの値が得られ、小さいほうから「25パーセンタイル (第一四分位数)」、「50パーセンタイル (中央値)」、「75パーセンタイル (第三四分位数)」と呼びます。

国語、算数ともに東京都及び全国平均を下回る結果となったが、昨年度と比較すると、今年度の結果は両教科ともに東京都及び全国平均との差が2~3ポイント縮まっている。全国平均と比べ、国語は-7.2ポイント (東京都平均とは更に-1.8ポイント)、算数は-2.5ポイント (東京都平均とは更に-4.5ポイント) であった。

また、四分位を見ると、国語、算数ともに東京都及び全国の平均正答数を下回る結果となった。本校の平均正答数は第2四分位の値である国語で9問、算数で10問であった。

そこで、全国学力・学習状況調査の結果を踏まえ、各教科の詳細分析を行い、授業改善の取組に努めていく。

【国語】

分析

「学習指導要領の内容」における「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」で、東京都の平均を下回る結果となった。特に、東京都及び全国の平均との差が大きかった区分は「知識及び技能」の「情報の扱い方に関する事項」である。様々な情報の中から原因と結果の関係を結び付けて捉えることができていない児童が多くいた。「言葉の特徴や使い方に関する事項」では、当該学年までに配当されている漢字を文の中で正しく活用できていない児童も多くいた。また、正答率が最も低かった区分として「思考力、判断力、表現力等」の「書くこと」が挙げられる。問題形式が記述式であることから、書くことへの苦手意識や抵抗感をもつ児童が少なくないことが考えられる。このような結果から、今後の学習において漢字の使い方や主語・述語の関係を理解したり、文法を正しく用いたりし、語彙力を高めていくことが重要だと考える。

授業改善

- 国語辞書・漢字辞典の活用（3年生以上）を積極的に取り入れて、言葉の知識を増やしていく。
- 朝読書のフル活用、読み聞かせの実施等、読書環境の充実を図り、活字に慣れ親しませていく。
- 朝学習の時間を活用し、テーマ（選択型）に合った百マス作文を書く取組を全校で実施し、書くことへの抵抗感を取り除いていく。
- 国語の授業を中心に、目的や意図に応じて自分の考えや意見を文章にまとめる活動をどの教科にも取り入れ、文章力を高めていく。

【算数】

分析

「学習指導要領の領域」における「数と計算」「図形」「変化と関係」「データの活用」の4区分で、東京都の平均を下回る結果となった。特に、東京都及び全国の平均との差が大きかった区分は「数と計算」である。問題場面と関連付けながら式の意味を理解すること、括弧を用いた式や加法・減法の混合した式を正確に計算することが苦手とする児童が多くいた。また、正答率が最も低かった区分として「図形」が挙げられる。問題形式が記述式によるため、自分の考えを筋道立てて説明することが苦手とする児童も多かった。このような結果から、今後の学習において分配法則を用いた計算練習をしたり、自分の考えを式と合わせて言葉で説明したりすることが重要だと考える。

授業改善

- 学習内容と身近な事象とを関係付け、学習への意欲につなげたり、図や数直線等の具体物を提示し、答えの求め方に必要な情報を見付け出す活動を取り入れ、筋道立てて考えていくことのよさを実感させたりする。
- 東京ベーシックドリルを活用し、朝学習や授業の最初の時間を中心に、計算問題や既習事項に繰り返し取り組む機会を設定し、定着を図る。
- 立式や答えを求める過程など、式や図、言葉を用いてまとめる自力解決の場面やそれぞれの考えに触れる交流活動を設定し、コースの実態に応じながら児童一人一人の論理的思考力を高めていく。
- タブレットアプリ「ミライシード」を活用し、既習事項の確認や復習を行い、定着を図る。